

今年は肌寒い日が多く、本格的な夏まではもう少しといった札幌ですが、これからの季節に必須なものといえば『エアコン』。

こちら北海道も年々猛暑日が多くなり、エアコン無しでは厳しい環境となっていますが、最近ニュース等で話題になっているのが『エアコン2027年度問題』。簡単に説明すると、2027年に省エネ基準が大きく引き上げられるため、その基準に満たない製品は製造・販売ができなくなるそうです。現在普及率の高い安価な製品の多くが新基準適合外となるため、駆け込み需要による工事の遅延やナフサ問題による資材不足が予想されます。

また、2027年はエアコン本体の価格上昇も避けられないようですので、老朽化した自宅のエアコンをどうしようかと思案中です。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)



世界の拠点から
-From the base in the world-



～新たな出発点として～

先日、KHEの新倉庫の竣工式が無事に終了いたしました。昨年の7月に着工し、このほどようやく完成の日を迎え、当日は蘇州園区政府やお取引先の方々のご参列を賜り、式典を執り行うことができました。大きさは3,000㎡の2階建て構造で約6,000㎡の建屋です。自動車部品のアフターマーケットも国内外を問わず、環境は急速に変化しつつあり、競争も一層厳しくなっております。中国での新車市場も電気自動車の普及や日系・欧米メーカーの苦戦など競争勢力図の急速な変化を日々実感させられます。

このたびの新倉庫オープンを新たな出発点として、品質、納期、価格競争力をさらに追及してまいります。今後とも日本はじめ世界各国のお客様へ、よりご満足いただける商品をお届けすることを目指し、KHE社員一同、一層努力を重ねてまいります。



KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は船橋三山送信所を紹介いたします。

千葉県船橋市三山地区にある電波塔で、現在も千葉テレビやBAYFMの電波を送信しているそうです。色が東京タワーに似ていますが、東京タワーが高さ333mに対して、船橋三山送信所は180mで高さが全然違います。私の実家がある名古屋にもテレビ塔がありますが、高さは180mで同じでも、色合いは名古屋のテレビ塔の方がグレー1色で質素な感じです。

住宅街の狭い道を通り抜けて、その船橋三山送信所のタワーの近くまで行くと、確かに名古屋のテレビ塔と同じぐらいの高さを感じました。ただ東京タワーや名古屋のテレビ塔は、周辺が市街地で賑やかなのに対して、この電波塔は高台の住宅街にあり、周辺は住宅しかなく閑散としています。

周辺の幹線道路を走っていても、なかなか気づきにくく、船橋にもこのようなタワーがあるのを初めて知った次第です。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

5月の連休も過ぎ、忙しい時間を過ごされていますか?気温も暑くなり、身体がバテてくると甘い物が欲しくなりますね。弊社には名古屋市昭和区にパティスリーがあり、ケーキや焼き菓子など製造直売しています。川名にあるルービックススクエアの1階『シュヴァル・ヴォラン』。

5月に名古屋松坂屋本店にてポップアップショップを出店していました。今回はポップアップの方に行ってみました。地下の駐車場への通路近くという事もあり、大勢のお客様が並んでいました。大分出身のシェフ芦刈氏はフランスで修業し、リッツカールトン大阪などでその腕を振るい、大分の『Patisserie K-Ashikari』ではオーナーパティシエを務めていました。妥協のない食材選びに彼のセンス溢れる調律で美味しいケーキを提供しています。

ちなみに私の一番のオススメは、店名と同じ名の『シュヴァル・ヴォラン』。この名前にしたのは、絶対的な自信の表れ。ひとくち口に入ると、トルコ産ヘーゼルナッツの味と舌ざわりがとても良く美味しい。このヘーゼルナッツも仕込み時に、粗めと細かめの2種を絶妙な具合で混ぜ、この風味を醸し出しています。これが好きで今回も購入しようと思ったのですが、私の訪れたタイミングでは売り切れておりました。残念。しかしそれほど人気のある商品。ポップアップは終了していますが、名古屋にいらした際は是非、川名のルービックススクエアへお越し下さい。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

福岡を代表するグルメには、豚骨ラーメンやもつ鍋など全国的に知られる名物が数多くありますが、近年では『明太フランス』も定番となっています。

その明太フランスを作ったのが福岡市東区松崎に本店を置く『Full Full (フルフル)』です。大正14年(1925年)創業の100年老舗ベーカリーで、福岡県内には本店含めて5店舗あります。看板商品『明太フランス』が誕生したのは2002年。当初は1日に10本程度しか売れなかったそうですが、現在では、多い日には1日4,000本から5,000本が販売され、年間販売数は150万本を超えるといわれています。今や売上約11億円のうち、約4割を占める看板商品となり、明太フランスという銘柄は今や福岡のパン屋では定番商品となっています。

商品としては、北海道産と九州産にこだわった小麦を使用した生地を、一度オーブンで焼いたあと、明太子とバターを混ぜた餡を端から端まで手作業で入れています。バター6割に対し、福さ屋の明太子4割の黄金比率です。もう一度焼き直し、カリカリに焼きあげれば、フルフル名物・明太フランスの完成です。焼きたてにこだわり、約10分おきに焼き上げることで、いつ来店しても焼きたてが購入できる工夫がなされています。

福岡へお越しの際は、ぜひ一度味わっていただきたい逸品です。

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

ジャカルタ、プカシ辺りには最近ジムやピラティスのような施設ができ、運動が盛んになっています。若者から中高年の方(50~60歳あたり)はジム、ピラティスにどんどん参加しています。そのような運動場はあちこちに建てられており、ピンからキリまであります。いい運動場は大体半年間自由にジム器具を使うことができ、費用は約3万円です。さらにパーソナルトレーナーが必要であれば1回1時間のセッションを約10回分利用でき、そこでジム器具の使い方などを教えてくれます。私の近所の人は筋肉の病気で入院したのですが、回復したあと先生から「ジムに通えば病気の再発を防ぐことができる」と言われたそうです。

私の友達は部屋が2つか3つある家を借りて、中古のジム器具を購入し、小さなジム経営を半年前から始めました。インドネシアは90%ムスリムであり、女性と男性が混じって運動することは人によって抵抗があるため、友達は更にもう1軒、家を借りて女性用のジムもしています。友達はジムの専門じゃないので、パーソナルトレーナーを雇ってジム経営を少しずつ成長させています。

KJI(インドネシア)(工場長:S.Akhyar)

先日、今年初めての企画として、KCSで『KOYO KARNIVAL』を開催しました。KCSでは毎年、何かしらの社内イベントを行っていますが、今年は『どこかへ出かける』のではなく、「こちらに呼びましょう!」ということで、フードトラックをKCSに招いてのイベントとなりました。

当日は、焼き鳥やラーメン、かき氷のフードトラックに来ていただき、社員みんなで駐車場に集まって美味しい食事を楽しみました。最後にはギフトカードルーレットのゲームも行い、みんなで盛り上がりながら楽しい時間を過ごしました。

昨年はBBQイベントでしたが、今年は日本らしく焼き鳥&ラーメンに

しました。現地の社員の中には初めて焼き鳥を食べる方もいて、とても新鮮で楽しいイベントになりました。やっぱり、みんなでわいわい食べるご飯は美味しいですね。社員同士の距離もまた少し近くなり、チームの絆が深まったように感じます。

また、食べきれなかったラーメンなどは、希望者に持ち帰ってもらいました。私もラーメンを持ち帰ったのですが、帰りの車の中でブレーキを踏んだ瞬間にまさかの落下…。帰り道の車内は、しばらくとんこつラーメン屋さんのような香りになっていました(苦笑)。

さあ、これからもどんどん夏の思い出を作っていきます!

KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

自然って素晴らしい…。でも、おそらく誰もが自然を好きとは限らないでしょう。蚊、日差し、土埃など、考えられる理由は様々です。

私はその反対で自然を心から愛する側です。そこはまさに完璧な環境なのです。自然の美しさに勝るものはありません。

子供たちはどこでも空に架かる色鮮やかな虹に喜びます。ある晴れた朝、噴水に小さな虹を見つけました。太陽の光と水滴があれば虹は見えるので、魔法のようなものではないと分かっていますが、やっぱり私はこれを見て嬉しくなりました。たぶん、毎日遊ぶことしかできなかった子供の頃の思い出が蘇ってきたのでしょう。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

私にとって自動車は仕事であると同時に趣味でもあり、人生を通して興味を持ってきたものです。機械工学に関する知識があるため、時々、少し手入れが必要な趣味用の車を購入し、空いた時間に修理してしばらく運転しています。

昨年、手入れがかなり必要なTVRを購入しました。TVRはチューブラーフレームのシャシーとポリエステル製のボディを持つイギリスのスポーツカーです。TVRは、重量出力比(V8エンジンで約1000kg)だけでなく、型破りなデザインと人間工学(の欠如)でも知られており、少しくレイジーな車です。

当初、この車は希少なので必要な情報を見つけるのも簡単ではなく、イギリスのEU離脱の影響で部品を見つけるのも難しいかつ高価だったため、私の頭を悩ませました。しかし、長い苦労の末、ついに思い通りに運転できるようになりました。運転するたび、あるいは横を通り過ぎるたびに、思わず笑顔になります。これは、心に染み入るような車なのです。見た目が最高なわけでも速度が最速なわけでもないですが、その荒々しい走り(安全装置なし)と外観から、他の車との比較は非常に難しいです。最初はいくつかトラブルがあり、自分の決断に疑いを抱きましたが、いざ走り出すとすっかり心を奪われるので、正しい選択をしたと確信しています。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)